

令和4年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦、<100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画					自己評価					学校関係者評価					
教育目標	重点目標	具体的目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B) アンケート・統計は12月	達成度(B/A)	評価	成果と課題	次年度への改善策	評価	コメント	
豊かな人間性をもち、高い志を掲げ、主体的に学び、自立する生徒を育成する	学力を育む	望ましい学習習慣の確立 指導力の向上	教務	a. 授業の始めと終わりの時間厳守とあいさつの徹底 b. 学習規律の確立を目指した授業づくり	①わたしは、授業に積極的に取り組んでいる。	90%	アンケート(生徒2)	95%	106%	A	(1) ①は昨年度より6ポイント、②は4ポイント上昇した。授業の始めと終わりの時間を守り、生徒が主体的に授業に取り組む雰囲気作りができてきた成果が現れてきた。	このまま学習規律を確立した授業を継続し、生徒に望ましい学習習慣が身につくよう取り組んでいきたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律が確立されていることは当校の魅力であり特色であるといえる。 授業の満足度が高く、家庭学習への取り組みもよい。 資格取得に縛られすぎることはないが、学んだ先の成果として進路実現には有効である。 教員によるICT活用については、教育効果に配慮しながら活用促進・利用率向上を目指していけるとよい。 	
				a. 適切な課題による家庭学習の習慣化	②先生は、生徒の授業態度に対してけじめのある指導をしている。	90%	アンケート(生徒9)	93%	103%	A	(2) ③は3ポイント、④は12ポイント上昇した。今年度の1年生から個人端末を利用することになり、生徒も教員もその活用に向けた取り組みをした結果と思われる。				次年度は2学年が個人端末を持つ学年となる。新2年は新教育課程で商業専門科目でも新しい科目が始まるので、これまでに新しい課題の作成などに取り組んでいきたい。
				a. 研究授業、公開授業等の実施 b. 生徒による授業評価の実施 c. ICT環境の活用	③わたしは、授業で出される課題や、検定試験に向けた課題に、家庭できちんと取り組んでいる。	80%	アンケート(生徒3)	89%	111%	A	(3) ⑤は1ポイント、⑦は2ポイント減少した。この2項目は目標値に達しておらず、改善を要する。⑥は教員が授業改善に取り組んだという自己評価であり、昨年度より7ポイント上昇をし目標を達成できた。				ICT環境の活用が促進されるよう、研修の機会を設けたり、公開授業のテーマを変更したりして、一丸となって授業改善に取り組んでいきたい。
					④生徒に家庭での学習を促すよう、教科指導や課題を工夫した。	80%	アンケート(教員1)	92%	115%	A					
					⑤先生は、わかりやすい授業や、生徒自身が考える授業づくりに努めている。	90%	アンケート(生徒10)	86%	96%	B					
		資格取得の支援	商業	a. 検定補習、集中講座の実施 b. 検定ロードマップの作成	⑧3年生の全商検定1級3種目以上取得率	40%	統計資料	37%	93%	B	(4) 全商検定1級3種目以上の取得者は71名。そのうち、1級8種目取得者1名、1級7種目取得者1名、1級6種目取得者1名、5種目取得者18名、4種目取得者は18名だった。1級8種目取得者は平成26年度以降8年ぶりである。日商簿記2級、基本情報技術者試験等でも合格者を出すことができた。	現在2種目以上取得している2年生は69名(177名中)、うち3種目以上が45名である。次年度は全種目での1級取得や日商、国家試験等での合格者数の増加を目標としたい。		<ul style="list-style-type: none"> 公開授業で、生徒が真剣に取り組む様子を拝見した。授業は知識を身に着けるだけでなく、経験し感じとる場であると見て取れた。 	
	望ましい勤労観・職業観の育成	進路指導	a. 「松商だんだんフェスタ」の充実	⑨商業の体験学習である「松商だんだんフェスタ」や学科・学年別校外体験学習は有意義である。	90%	アンケート(生徒8)	94%	104%	A	(5) 体験学習等を通して「挨拶」「礼儀」の大切さが実感できた。ビジネスの場に応じたマナーや対応力が身につくように指導を続けたい。入場を限定してではあったが、3年ぶりにだんだんフェスタを実施することができた	松商だんだんフェスタは生徒・保護者、地域の皆様から大きな期待をいただいている。本来の目標や基本理念を見失うことなく、無制限入場に向けて実施内容等、ブラッシュアップさせていく。		B	<ul style="list-style-type: none"> 規模を調整しながらも松商だんだんフェスタを実施できてよかった。 次年度は地域を巻き込んでできるとよい。 地域との連携が進むよう、引き続き対応をお願いしたい。 進路指導は多方面にわたり工夫されている。 企業の担当者から直接話を聞く機会はとてよい刺激になる。 ボランティアとして地域に出ていく生徒がもっと増えてほしい。地域に意見を聞き、どんなニーズがあるかを探ることが、生きた学習につながる。 	
			a. 地元企業説明会の実施 b. 進路座談会、進路講演会等の実施 c. 進路の手引の活用 d. 企業訪問の実施	⑩学校から提供される進路情報は、自分の進路を考える上で役に立つ。	90%	アンケート(生徒11)	93%	103%	A	(6) 地元企業説明会は52社の協力を得て3月15日に開催をした。進路座談会は卒業生の力を借りての実施。今年度から1年生の学科選択の参考にと考え6月開催としたが、卒業生の都合(年度初め、試験)もあり、いろいろな分野の卒業生に参加してもらうことに課題が残った。「進路の手引」(進路資料)についてはすべての保護者の方に確実にお渡しできる方法を検討する。	進路座談会については今年度からの変更のためR5年度もこの日程で実施を計画し、状況を見ながら時期や実施方法などを検討したい。「進路の手引」などの進路についての資料はPTA行事や保護者面談などを通じて確実にお渡しできる方法を実施していきたい。				
			a. 一人ひとりに応じた進路指導(進学補習・小論指導・面接指導等) b. 生徒および保護者への進路情報(進路の手引・進路だより・進路行事等)の提供と活用 c. ハローワーク、松江市との連携による求人開拓 d. 企業訪問等によるミスマッチの回避	⑪在学中に就職先を内定する生徒の割合(内定率)。	100%	統計資料	98%	98%	B	(7) ⑪の就職については求人数も増加傾向に有り、一般事務職を中心に内定をいただいた。公務員の受験結果を受けてからの就職活動に課題が残った。 ⑫の進学は多様な入試制度を活用し、国公立大学や有名私立大に挑戦し、難関校に合格した。また近年、医療系(看護師、療法士など)を希望する生徒数が増加しているため体験学習、希望先の情報の収集、受験対策等の充実が課題である。	⑪について、公務員試験の結果が分かる時期が遅いため、高卒求人受験の時期を逃した生徒に対する企業紹介の幅を広げるため地元企業との連携強化を行う。⑫については、進路目標の設定をより早い段階で行う進路指導に取り組む。特に医療系についてはコロナの影響で体験学習の機会が少なくなっているためより早い時期からの呼びかけを行っていきたい。				
				⑫在学中に進学先を決定する生徒の割合(合格率)。	100%	統計資料	100%	100%	A						
			地域貢献活動参加の推進	生徒	a. 地域に貢献する活動への積極的な参加の支援	⑬わたしは、今年度、ボランティア活動に参加した。(部活動や生徒会単位の地域清掃などの活動も含む)	40%	アンケート(生徒18)	19%	48%	C	(8) 今年度もコロナウイルス感染防止の観点から多くのボランティア活動が中止または延期となった。学校で行う清掃ボランティアは一般生徒からも募集したが、主に部活動単位での実施となった。乃木駅駐輪場周辺や校地周辺の清掃活動であったが、参加した生徒は一生懸命に取り組んでいた。			来年度環境が整えば、より積極的に一般生徒にも参加を促していきたい。
	生徒会活動の活性化	生徒	a. 全校生徒、教職員が一体となった学校(生徒会)行事への取り組み b. 各種委員会活動など生徒主体の活動の企画・実施	⑭わたしは、クラスの委員や係、または生徒会の活動に積極的に取り組んでいる。	75%	アンケート(生徒5)	80%	107%	A	(9) コロナ禍でも、感染防止対策等を図りながら、日程や実施内容を変更して対応し、生徒会の生徒、担当教員の尽力で球技大会、瑞木祭等を成功させた。	コロナ後の学校行事の企画・実施を推進する。				

令和4年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦、<100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画				自己評価							学校関係者評価			
教育目標	重点目標	具体的目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	成果と課題	次年度への改善策	評価	コメント
豊かな人間性をもち、高い志を掲げ、主体的に学び、自立する生徒を育成する	人権・同和教育の推進	図書人権教育・生徒	a. 生徒理解と信頼関係の確立 b. 人権・同和教育に関するLHRの指導計画立案 c. 実践をともなう道德教育の推進 d. 人権・同和教育および道德教育に関する教職員研修の充実	⑮学校では、面談などを通して生徒理解を行う努力がなされている。	90%	アンケート(生徒13)	88%	98%	B	(10) 教職員に悩みを相談できる雰囲気があると答えた生徒が少ない。生徒から気軽に相談できる雰囲気を作るため、平素より教職員から生徒へ声をかけたり、生徒の変化をよく観察する等、信頼できる関係を築く努力が必要である。また、教職員にとって「当たり前」でも、生徒にとっては「頑張って取り組んだ結果」であることも少なくない。	教職員がより一層意識して生徒自身が自尊感情を高められるよう生徒理解に努めていく。			
				⑯学校には、教職員に悩みなどを相談できる雰囲気がある。	70%	アンケート(生徒14)	65%	93%	B					
				⑰人権同和教育および道德教育に関する教職員研修は有益であった。	90%	アンケート(教員23)	80%	89%	B	(11) 県の研修テーマに沿った内容で実施できた。				
	配慮を要する生徒への支援	保健	a. 関係する教員間での情報共有 b. 教育相談、生徒支援の委員会(さわやか委員会等)の充実	⑱配慮を要する生徒の情報を共有し、協力して支援を行なうことができた。	90%	アンケート(教員12)	95%	106%	A	(12) さわやか委員会、特別支援校内委員会等を通して、配慮を要する生徒について支援方法を考え、全教職員で情報を共有した。また、今年度は心身の不調を訴える生徒でSCに相談するケースが多く、SCからの確かな支援方法のアドバイスをいただいた。	配慮を要する生徒に対して、今後も、一人ひとりに合った支援方法を探り、全教職員で情報を共有して全体で支援していきけるようにコーディネートしていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しにくい生徒がだれかに相談できる場を、少しずつ持てるようにしていけるとよい。 ・生徒の相談先は学校のみとは限らない中、見方によっては高い数値ともいえる。学校へ悩みを相談したいと思った生徒が相談しやすく、しっかり対応できる環境を引き続き作っていただきたい。 ・ビジネスマナー、身だしなみ、挨拶指導が充実している。引き続き教員間の共通理解をもって指導をおこなってほしい。 ・図書館を訪れたいくなる環境づくりを続けていってほしい。 ・部活動の活躍はめざましく、文武両道は生徒にとっての魅力である。 ・部活動が持続可能な活動となるよう、人的・経済的バックアップの仕方を探っていく必要がある。 	
				⑲ビジネスマナー指導は自分にとって役に立つ。	90%	アンケート(生徒12)	89%	99%	B	(13) 体験学習等を通してビジネスマナーの重要性を理解できた生徒もいる一方で、自信をもって周囲と接することが苦手な生徒もいる。	松商生はできて当たり前であり、周囲から信頼を得られている。そのイメージをさらに高めていけるよう、今後も指導を継続していく。			
	望ましい生活習慣の育成	生徒	a. 身だしなみ指導の計画的実施 b. 全教職員と生徒会による登校指導と適切な声かけ c. 校外でのマナー(通学マナー)指導の充実 d. 校外での挨拶の励行	⑳わたしは、清掃活動に積極的に取り組んでいる。	95%	アンケート(生徒6)	94%	99%	B	(14) 生徒が清掃活動に取り組む姿勢はおおむね良好で、教職員も毎日担当場所で指導を丁寧に行った。傷んだホウキの交換を行ったが、数が不足し十分にできなかったことが反省点である。	交換用の用具については、不足がでないように十分に確保しておく必要がある。			
				㉑毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	統計資料	98.5%	99.5%	B	(15) 教員と生徒会による朝の登校指導(あいさつ、登校マナー)で、生徒の様子を観察しながら継続的に声かけを行った。登校指導への教員の参加で、より多くの目で生徒の様子を観察することができた。	身だしなみや校外におけるマナーについての意義を定期的に全校で確認する機会をもち、引き続き生徒部と学年部で連携しながら全教員で取り組んでいく。			
				㉒非遅刻率	99%	統計資料	99.6%	101%	A					
	㉓わたしは、高校生らしい身だしなみを心掛けている。	95%	アンケート(生徒4)	96%	101%	A	(16) 生徒が使用したい資料を迅速に入れることができた。	より生徒のニーズに応えていきたい。						
	部活動を通じた人間教育の充実	生徒	a. 各自の目標達成への支援	㉔図書館には読書や調べ物に適した資料が揃っている。	70%	アンケート(生徒16)	83%	119%	A	(17) 運動部・文化部ともに部活動は盛んであり、部活動への強い参加意欲をもって入学する生徒も多い。コロナ禍により日頃の活動や各大会の運営等に様々な制限がかけられた。しかし、生徒たちは目標を見失うことなく、周囲の様々なサポートもあり最後まで部活動をやり遂げることができた。	部活動を通じて豊かな人間形成を図りながら、将来の進路に向けて自己実現が図れるよう支援していく。			